

## 平成30年度座談会「町長と語ろうまちづくり」(第2児童館)

開催日時	平成30年10月22日(月)午後7時から午後9時	天気 晴
場所	第2児童館	
町民参加者	男8人 女11人 (50代6人、60代以上13人)	
町出席者	町長、副町長、教育長、参事兼企画政策課長、参事兼上下水道課長、 総務防災課長、福祉課長、保険健康課長、生涯学習課長、事務局2人	

### 出席者から出た主な意見や提案

#### 《テーマ：防災対策について》

- 災害はいつ起きるかわからないが、確実に起きるものだと考えて備える必要があると考えているかどうか。
- 避難行動要支援者という制度があるが、例えば地震の予知が出た時にどのように行動すればよいのか。最近はプライバシー保護の関係でいろいろな情報が入ってこず、どこまで踏み込んで良いのかも話し合う必要があると考えている。
- 公助というと、どうしても役場がやってくれるから自分自身は何もしなくても良いと考えてしまうところがあるが、一緒に災害に立ち向かうために町で行っている対策も知る必要がある。災害時に地域の住民が動けるように、机上での話し合いではなく、実際に訓練を行うように考えていかないと動けない。出来るだけ被害を少なくするためにも動けるところは動いていく必要があるということを改めて提起したい。
- 防災無線が聞き取れないという問題点を何年も言わせてもらっているが、少しも改善していない。今年の防災訓練の日に雨が降っており、中止するかどうかの放送が流れたが、聞き取れなかった。一昨年に男性ではなく女性の声でやってみてはどうかと提案し、今年は女性の声で放送されたが同じく聞き取れなかった。最初の「こちらは防災山北です。」の部分だけは聞き取れるが、その後ろから急に音が小さくなって聞き取れなくなる。男性の声でも女性の声でも同じように聞き取れないため、放送する人とマイクの距離が離れていることや防災無線のスピーカーの音が反響して上手く聞こえないことが原因ではないのか。
- 戸別無線機について、防災訓練の日に雑音ばかりで音になっていなかった。デジタル化した場合は、雑音は減るのか。
- 災害の際に携帯電話を利用するにしても、洪水や土砂崩れなどで家が流されてしまえば、携帯電話も流されてしまうため、頼みは防災無線のみとなる。スピーカーは発明されてからずっと進歩

していないため、高性能スピーカーにしても何も変わらないはずである。

○アナログでもデジタルでも構わないが、防災無線で流れる放送が聞こえるように総務防災課がちゃんと対応してくれればいい話であり、聞こえないという苦情があった場合には、しっかり対応すれば良いのではないか。

○災害時要援護者の支援体制について、名簿の内容を見ると、近所の高齢の方や1人が2世帯をサポートするといったものになっているため、実態にあっていない。地域が高齢化しているため支援体制が整っていない。中学生もサポート体制に入れてはどうか。

○東日本大震災の際に電車に乗っており、帰宅難民となったときに、秦野市役所の職員が避難場所への誘導など対応してくれた。山北町では帰宅困難者の受け入れの体制は出来ているのか。

○防災無線の戸別受信機の音が割れてしまっていて聞き取れないため、直してもらいたい。

○防災の取り組みについて、初動体制が重要だと考えており、地域ごとに考える必要があると思う。訓練をする際には、地域ごとに特性があるため、それを考えた訓練を行ってほしい。自治会の役員は単年度で変わってしまうため、継続的に対応を行っていくためには、防災に対する知識を持った人や災害の経験をした人を地域の中から選出して、その人たちを含めて連自治会や各自治会で具体的な話し合いを行っていく必要があると考えている。

○災害時要援護者について、登録などは自己申告で行うのか。

#### 《テーマ：その他》

○座談会以外に町への要望や提言はどのように行えばよいか。